授業科目名	【G】プレゼミⅡ 【H】プレゼミⅡ	区分	必修	開講年次	【G】1 【H】1	単位数	【G】2 【H】2

科目区分	専門科目
授業形態	対面授業
担当形態	単 独
施行規則に定める科目区分又は事項等	
サブタイトル	社会で実際に発生している法的問題に目を向けよう。
担当者	許 馨予
授業概要【概要】	学生自身が会社法に関連する新聞記事を選び、その内容を通じて実際にどのような法的問題が発生しているのかを把握し、様々な法的問題が身近にあることを理解しましょう。さらに、その問題をどのように解決できるかを考えましょう。
授業概要【到達目標】	学生が自分の身の回りで発生している法的問題を発見できること、その問題をどのように解決できるかを他人に説明できるようにしよう。
履修条件	特にありません。

アクティブラーニングの方法

【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他

ディプロマ・ポリシーとの関連性

DP（ディプロマ・ポリシー）①	◎ （よく当てはまる）
DP（ディプロマ・ポリシー）②	◎ （よく当てはまる）
DP（ディプロマ・ポリシー）③	ー （当てはまらない）
DP（ディプロマ・ポリシー）④	ー （当てはまらない）

他科目との関連性	プレゼミⅠ
教科書	特になし。最初に担当教員がレジュメを配布します。
参考書	特になし。
評価方法	報告内容（レジュメの作成・発表）50%、平常点（授業への参加度、質問、発言など）50%
フィードバック方法	学生の報告内容や作成したレジュメについて、質疑応答を交えながら適宜コメントを行います。
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた学生は「S」または「A」とし、単元の内容についての理解や表現に不適切な点がある学生はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な学生はその程度に応じて「D」または「E」とします。正当な理由なく自らの発表が行われなかった場合や、欠席回数が6回以上（5回までが限度）の場合など、評価不能な場合は「F」とします。

授業科目名	【Ｇ】 プレゼミⅡ 【Ｈ】 プレゼミⅡ	区分 必修	開講年次	【Ｇ】1 【Ｈ】1	単位数	【Ｇ】2 【Ｈ】2
授業内容	【ゼミ内容】 プレゼミⅡでは、学生が身近な会社法に関する問題を新聞記事を通じて、発見・理解・解決する訓練をします。とはいえ、学生は、あまり難しく考える必要はありません。適宜、担当教員がアドバイスします。 【ゼミの進め方】 第1回：オリエンテーション。ゼミナールの進め方について説明します。 第2回～第15回：担当者から報告してもらい、その内容をもって ディスカッションを行います。 その他：場合によっては、法的思考力を養うためのディベートを行います。 【その他】 学生の積極的な参加を期待します。 新聞をよく読んで下さい。 【AL】学生を少人数のグループに分けて、グループワークを行わせることがある。					
予習内容	必要に応じて指示しますが、学生は、①新聞記事を読むこと、②わからない単語等を調べることを実践してください。 ゼミごとの予習時間は90分程度を目安としてください。					
復習内容	必要に応じて指示しますが、学生は、①ゼミ中に分からなかった単語を調べたり、②議論の内容を顧みてください。 ゼミごとの復習時間は90分程度を目安としてください。					
その他	特にありません。					